

温泉地における長期滞在について

浦 達 雄

I はじめに

1. 研究の背景

日本の温泉地は、湯治場（療養温泉地）が原点である。明治期後半以降、中産階級の増加、交通機関の近代化などで、大都市周辺の湯治場が保養温泉地へ転換し、高度経済成長期では、観光の大衆化・大量化・広域化が進展し、その結果、熱海・伊東・別府の3大温泉観光都市が出現することになった（浦 2006）。

ところで、温泉地の滞在期間は、湯治場時代は7～14日間と言われ、主に農閑期における農民の利用が主体であった。しかし、高度経済成長期では、温泉地の観光化が進展し、1泊宴会型の観光温泉地が急成長し、従来の療養・保養といった機能が、一部の温泉地を除いて、徐々に消えうせることになった。

近年、プチ湯治、新湯治など、湯治場機能の見直しが進められるようになり、各地でその取り組みが始まりつつある。具体的な例として、東鳴子温泉（宮城県）、温泉津温泉（島根県）などである。

温泉地の長期滞在に対する取り組みについては、その成功例は限定され、一部に留まっていると思われる。そこで、今回の研究では、温泉地における長期滞在について、その概要を把握することを意図した。概要の把握とは言え、それなりの意義はあると考えて、予察的な研究に取り組むことにした。

2. 研究の目的と方法

研究の目的は、温泉地における長期滞在について、その概要を把握することである。具体的には、長期滞在の日数（理想と現実）、その際の必要施設、活動内容、理想と現実の間にある問題点・課題の実態把握である。調査の方法は、温泉観光実践士養成講座（大阪）（2015年6月27・28日開催）（温泉観光実践士養成講座実行委員会 2015）の際の修了レポートで、温泉地の長期滞在に関するアンケートを実施し、その結果、62人に及ぶ枚数を回収した。

回答者は温泉マニア（社会人）が大半で、4人が学生（その内3人が留学生）であった。温泉マニアとは言え、温泉地に出向く回数は一般の方よりも多く、温泉に関する造詣も深く、温泉の正しい理解と温泉地の活性化に対して真摯に向き合う方が多い。

今回はアンケートの簡単な分析にとどめ、概要の把握に努めることにした。実証的な研究については今後の課題としたい。

3. 従来研究成果

観光地理学の立場で、温泉地に関する研究は実に多い。しかし、長期滞在の研究となると、その数は少ない。日本を代表する温泉に関する学会の1つである日本温泉地域学会の研究誌

「温泉地域研究」を見ると、次のような成果がある。

結果的には、長期滞在をテーマとする論考は存在しなかった。しかし、保養温泉地、ヘルスツーリズム、湯治場などをキーワードとする論文数は多い。

II 温泉地における理想の宿泊数

1. 理想の宿泊数

宿泊数の集計結果は表1の通りである。理想の宿泊数の平均は3.8泊で、2泊から14泊まで幅広い。内訳は、3泊24人、2泊20人で、理想とは言え、現実的な宿泊数となっている。

表1 長期滞在の宿泊数

宿泊数	0	1	2	3	4	5	6	7	10	14	平均
理想	0	0	20	24	2	4	5	6	1	1	3.8
現実	3	34	17	0	2	1	0	0	0	0	1.4

注. 例えば、2～3泊は、上位数の3泊にした。

2. 必要な施設

資料1は、理想とする必要な施設である。回答を得た大半の意見を掲載した。その内容を検討すると、主に次のように分類出来る。具体的には、露天風呂、湯治施設、ゲストハウス、外食、個室などとなる。

露天風呂は、温泉施設の中心となる施設で、回答数が多い。大自然とか、源泉かけ流しなどが求められている。湯治施設は、素泊まり、自炊施設、リーズナブルな料金体系が求められている。ゲストハウスはリーズナブルな料金体系に特色があり、別府温泉でもこうした形態が増えている。

外食施設は、湯治の場合、必要不可欠であり、大切な機能と言えよう。現実的にはこうした外食施設は少ないと思われる。個室は、リフレッシュを求める宿泊客が求める形態で、観光旅館でも、こうした対応に追われている。

3. 具体的な活動

資料2は、具体的な活動である。回答を得た大半の意見を掲載した。その内容を検討すると、主に次のように分類出来る。具体的には、湯治、保養、リフレッシュ、湯巡り、周辺の散策、温泉地を基点とした観光・湯治などである。

湯治、保養、湯巡り、リフレッシュは、温泉地における基本的な活動である。周辺の散策は、ハイキング同様、健康づくりに大切であり、特に国民保養温泉地では、散策ルートや温泉公園などが整備されている。

III 温泉地における現実の宿泊数

1. 現実の宿泊数

宿泊数の集計結果は表1の通りである。現実の宿泊数の平均は1.4泊で、1泊と2泊が多

い。内訳は、1泊24人、2泊17人で、0泊3人、4泊2人、5泊1人と続く。

2. 必要な施設

アンケート結果は紙面の都合で省略。必要な施設は理想の施設とほぼ同様に、一例をあげると、コンビニ、スーパー、日帰り温泉施設、ビジネスホテル、入浴プログラム・マナーなどを書いたパンフレット、露天風呂、温泉民宿、素泊まり施設（食事は地元の食堂利用）、温泉旅館（食事付）、レンタサイクル、喫茶店、1人部屋、ヘルシーな食事処、ゲストハウス、B&Bなどとなる。

3. 具体的な活動

アンケート結果は紙面の都合で省略。活動内容は、理想の活動とほぼ同様に、一例をあげると、温泉入浴、湯巡り、食事（地産地消）、リフレッシュ、観光、買い物、温泉地を基点とした観光、湯治、保養、人との出会いなどとなる。

IV 理想と現実の間にある問題点・課題

資料3は、理想と現実の間にある問題点・課題について、回答を得た大半の意見を掲載した。その内容を検討すると、主に次のように分類出来る。具体的には、時間、費用、制度の3点に集約された。

1. 時間

意見としては、「長期休暇がとれない」が多い。「仕事があつて休暇がとれない」「家族で志向が異なる」も大切な意見と言えよう。

2. 費用

意見として、「長期滞在は資金を要するので難しい」が妥当な回答と言えよう。「連休は費用が高くて、しかも、なかなか宿がとれない」「年末年始は旅行費用が高い」ことも問題だと指摘している。

3. 制度

意見として、「日本の社会構造で長期休暇をとれない現状を変えないといけない」「日本全体が働き過ぎ、365日同じ料金体系にして欲しい」などが問題点として取り上げられている。

V ま と め

温泉観光実践士養成講座の修了レポートの中で、温泉地における長期滞在に関するアンケートを実施したが、その結果は、次のようにまとめることが出来る。紙面の関係で、十分な分析は出来なかったが、資料にアンケートの結果を掲載しているので、これを参照願いたい。

①長期滞在で一番のネックは時間である。労働者の場合は、ゴールデンウィーク、シルバーウィーク、お盆、年末年始、週末などが、長期休暇となりうるが、最大でも1週間程度と思わ

れる。企業においては、年休制度はある程度充実しているが、いざ休暇取得となると、その実現は難しい。定年退職組にとっては時間はあるが、体力・資金不足となる。時間の問題が解決しても、週末や連休となると、宿泊費の高騰、交通機関（JR や飛行機など）の運賃の割引制度適用外も見られ、費用の問題が登場することになる。

②時間と同等に問題となるのが、費用である。一般的にレジャーにかかる費用は限られており、特に温泉特化となると、その費用対効果は難しいと思われる。

③そうなる、一番大切なことは、企業や国による休暇制度の充実である。政府は、ハッピーマンデー制度を設けて、月曜日を休日として、連休を増やしたが、その効果は一部に留まっている。さらに、政府は地域ごとに祝日が異なる移動祝日制度を検討しているが、これとて問題点は多い。

④長期滞在の場合、宿泊施設が問題となる。従来の湯治旅館ではなく、これを克服した宿泊施設が求められよう。リーズナブルな価格帯が第一義で、さらに、アンケートでは宿泊に際して個室が求められている。別府温泉ではゲストハウスが増加しているが、ドミトリー（相部屋）が主体で、個室希望には十分な対応をしていない。そこで個室対応のゲストハウスが求められよう。

⑤湯治をする場合、費用を抑える上からも、自炊や外食が原則である。そうなる、施設では自炊施設、街中で食堂が求められる。食堂は昼間の利用は可能なところが多いが、夜となると閉鎖するところが多い。

⑥湯治の場合、温泉入浴が主体となるが、長期滞在となると、温泉 + a が求められる。ヨーロッパの温泉地では、クアハウス、温泉公園、飲泉施設、散歩道などが充実し、カジノや劇場を付帯する温泉地も多い。日本ではこうした施設の充実は難しいが、国民保養温泉地の整備条件である温泉公園や遊歩道の整備をまず求めたい。

⑦長期滞在の場合、滞在メニューが求められる。1 週間の滞在の場合、モデルメニューをまず温泉地サイドで公開すべきであろう。

⑧宿泊施設の多様化が求められよう。高級和風旅館からゲストハウスまで、幅広い構成が大切である。基本はリーズナブルな宿泊施設だが、プチ湯治、新湯治などに対応する場合は、旧態依然とした湯治（貸間）旅館よりも、現代的な施設整備が求められよう。

⑨近年、スロートゥリズムやフードトゥリズムなどが脚光を浴びている。旅館は「旅の館」であり、料理にも旅が求められている。一律の京料理ではなく、地産地消、郷土料理を大切にしないといけない。

⑩日本には、1954 年から続く国民保養温泉地制度がある。この精神は日本における温泉地の方向性を明示しており、長期滞在のガイドラインを示していると思われる。政府、自治体、経営者、従業員、消費者共に、この制度を再確認する時期に来ている。

付記

本研究は、「研究種目（基盤研究 C）、研究課題（温泉地における長期滞在モデルの構築に関する研究）代表者 内田彩 課題番号：26360085」による研究成果の一部である。

参考文献

浦 達雄（2006）『別府温泉郷の観光地域形成に関する研究』クリエイツ、218 頁
温泉観光実践士養成講座実行委員会（2015）『温泉の正しい理解と温泉地の活性化－第 6 改定版－』

資料1 長期滞在で必要とする理想的な施設など

①交通利便性 ②静かな場所・自然の多さ ③コテージ ④コンビニ・外湯・共同湯、地元の食材を使った外食の場所 ⑤電話が繋がらない温泉施設 ⑥ホテル・旅館 ⑦引き湯している小規模な旅館・民宿、自然遊歩道 ⑧療養泉中心で、入浴の基本・入浴方法などの説明があると良い ⑨漫画やゲームなどの充実 ⑩露天風呂、源泉かけ流し ⑪湯巡り（内湯、外湯含めて）、温度の違う浴槽、露天風呂 ⑫プール ⑬湯治宿、自炊に必要な食料店・雑貨店もしくは室内に売店とリーズナブルな値段で食事を提供する食堂 ⑭1人で宿泊できる療養型の温泉宿 ⑮ゆっくりとくつろげる部屋 ⑯ミニキッチン付の宿泊施設、俗世間から隔離 ⑰24時間入浴、食事の有無・場所の選択 ⑱素泊まり出来る施設、たまには良い旅館も良いけど… ⑲温泉旅館（素泊まり可） ⑳素泊まり施設を多く作って欲しい ㉑自炊出来るのびのび出来る場所 ㉒エステルーム ㉓湯治施設、ログハウス ㉔コテージ、BBQコーナー、畑⇒連動する施設（姉妹店） ㉕露天風呂と大自然があればそれで良い ㉖料理（2食付）の美味しい温泉旅館と、安くて便利な素泊まり施設 ㉗温泉付客室 ㉘湯治棟 ㉙高級旅館 ㉚湯治場 ㉛ゲストハウス ㉜入浴時間制限の無い温泉、宿周辺の散歩が出来ること ㉝プライベートを守る空間、個室・離れなどが欲しい ㉞共同浴場・外湯巡り・散策など ㉟コンビニなど買い物出来る施設 ㊱昼食がとれる場所が欲しい ㊲温泉旅館 ㊳静かな施設（温泉旅館） ㊴宿と食事 ㊵B&B など手頃に泊まれる宿（ただし食事が出来る場所があるかどうか） ㊶喫茶店でのおんぼりし、山の場合はハイキングをする、案内所、レンタサイクル ㊷1人部屋 ㊸昼から夕方まで時間をつぶせる場所、手軽な移動手段 ㊹ゆっくり、のおんぼり、静養、保養が出来る施設 ㊺自炊設備または軽い食事が出来る施設、インターネット ㊻マッサージ ㊼ヘルシーな料理（食事処） ㊽B&B、ゲストハウス、湯治宿 ㊾設備（シャワーや桶の数、アメニティ等）が整っていること ㊿足の確保 ㊽滞在中にリラックスして過ごせるラウンジや読書スペース、無料パソコンの設置、安いレンタカーやレンタサイクルを用意する ㊽足湯など少しの時間でもほっと出来る場所や施設 ㊽宿、調理場、食材、布団 ㊽個室 ㊽コンシェルジュ的なアドバイザー、ゲストハウス

資料2 長期滞在での理想的な活動内容

①保養 ②湯治、ゆったりと時間を楽しむ ③トレッキング、山登り、寺社仏閣巡り、名所巡り ④温泉、酒、睡眠、読書 ⑤食事とリラックス ⑥起床して食事をして散歩して、食事をして昼寝して、散歩して食事をしてくつろぐ ⑦湯治 ⑧グループで楽しめるゲーム ⑨保養、観光 ⑩湯治、観光、トレッキング、鉱物採集 ⑪ハイキング、湯治 ⑫湯治、散歩、トレッキング、湯巡り、簡単な断食（もしくはカロリーが低く、ヘルシーな食事） ⑬仕事の合間で保養、もしくはそこで仕事をする（パソコンなどで） ⑭のおんぼり過ごす、自由な入浴 ⑮湯治、湯巡り ⑯湯巡り、保養（身体・気持ちのリフレッシュ）、周辺の地域観光、特産の美味しい食べもの ⑰保養、湯巡り（15～20カ所ぐらい） ⑱湯巡りをしていて、寝るだけの施設があれば良い。格安であれば良い ⑲湯に浸かる、昼寝・読書・散歩 ⑳保養、リラックス、何もしなくても、ゆっくり滞在するだけで良い ㉑温泉三昧、保養三昧 ㉒着地型観光（歴史散策、農業体験等） ㉓露天風呂に入って、美味しい料理を食べて、寝るだけで良い ㉔1泊目は旅館で、旅館料理をゆっくり楽しみ、2泊目はその温泉地で美味しい店で食事をして、温泉巡りをする ㉕リフレッシュ ㉖湯治、リフレッシュ、周辺の散策 ㉗温泉にのおんぼり浸かる。時間を気にしないで、非日常的なときを過ごす ㉘湯治体験、保養 ㉙ストレス解消、健康維持のための休養 ㉚保養、湯治、休憩 ㉛非日常的な行動（時間を気にしない）。保養 ㉜3泊4日で、2日観光、2日湯治（コアな場所へアプローチ） ㉝湯治場的なイメージで、何もせずにゆっくりする ㉞湯治、保養、観光 ㉟湯治、読書 ㊱街歩き、地域関係者への接触（役所、NPOなどへのヒアリング）、スポット巡り、観光客観察など ㊲外湯巡り、街歩き、郷土料理を楽しむ ㊳地元祭りに参加する、山登り、神社巡り、地域の温泉道に参加 ㊴日常のわずらわしさから離れる ㊵湯治場、涼むところ、眺めの良い湯 ㊶静養・保養。もしくは好きなことをするための拠点として ㊷温泉プール及びプールサイドはすべてを兼ね備えている。湯治、リラックス、飲食、バー等。㊸昼から夕方まで時間をつぶせる場所、手軽な移動

手段 ④保養しながら仕事をする。インターネットがあれば、どこでも仕事出来る ⑤保養と軽い運動、睡眠 ⑥湯巡りの拠点 ⑦湯治、観光、買い物 ⑧温泉地を基点として観光・湯治 ⑨周辺の湯巡り、散策、ハイキング、美術館、博物館訪問 ⑩心身の活性化

資料3 理想と現実の間にある問題点・課題

①色々を見て回りたいため、1ヵ所で長期滞在することがない。普段バイクに乗っているので、レンタルバイクがあれば、ありがたい ②日本の社会構造で、長期休暇がとれない現状を変えないといけない ③理想としては、3、4日を望みたいが、仕事の関係で、週末の土曜・日曜の利用で、1泊2日が現実 ④経費の捻出、休暇の取得、家庭の諸問題がある ⑤休みがない。仕事、子供の行事で1日がバタバタ過ぎる。それも、また楽しい。現実を楽しみたい ⑥1人で宿泊出来ない宿が多い ⑦仕事を休んでの行動となるので、タイミングが難しい。行き先の選定や目的の検討に日数を要することがある ⑧温泉入浴は良いのだが、入浴マナー、水分補給などを知らないのが現状である。注意書きだけでは不十分である ⑨忙しくて時間が取れないのが現状である。 ⑩調べて行くので、いまのところ、相違は無い。しかし、費用面、距離面で行きたくても、行けない場所がある ⑪長期の休みがとれない ⑫長期休暇の取得、1人で宿泊可能な場所 ⑬仕事を休めるか、旅行資金はあるかが問題 ⑭自由に仕事が休めない。週末、祝日中心の旅行となる ⑮仕事をする中で、長期の休みはとりにくい。欧米人に比べて、日本人は働き過ぎだと思う ⑯年末年始は旅行費用が高い ⑰仕事で休日がとれない。週末に温泉へ行くので、資金不足となる ⑱湯巡りをしていると、施設の老朽化、閉鎖施設が目立つ ⑲休暇の問題、輸送体制、価格の問題がある ⑳休暇について、社会・会社がもっと後押しをすべきでは ㉑日本全体が働きすぎ。365日同じ料金体系にして欲しい ㉒仕事があって、そんなに休みがとれない ㉓時間と予算の問題がある ㉔長期休暇がとれない。家族の志向が異なる ㉕連休は高く、なかなか宿がとれない ㉖売り手も買い手も、温泉への理解度が低い。湯治を国策とすべし ㉗休暇と予算の問題 ㉘現実には1泊となる。温泉は楽しめるがその他のイベントが楽しめない。車の場合、渋滞が心配 ㉙1泊2日は周辺をブラブラ出来るが、それ以上となると、くつろげる場所（特に昼飯）が無い旅館が多い。 ㉚長期はなかなかとれない。長期となると旅館料理に飽きてくるので、2日2食とか対応をして欲しい ㉛紙ベースの古い情報ではなく、インターネットを使ったアップデートの情報が欲しい ㉜長期滞在は資金を要するので、難しい ㉝休み、資金、目的が必要 ㉞時間や費用による制限がある ㉟時間がなく、休暇がとれないこと、宿泊費用がかかりすぎること ㊱湯治宿は古い建物のイメージ。車がないと行けない ㊲利便性が大切 ㊳人との触れ合いは醍醐味であるが、1人でいると、1人旅の人々との人間関係にわずらわしくなることがある ㊴周囲に合わせたタイミングで休みにくいこと。土日に出かけても、混むだけで良いことがない ㊵時間的問題と経済的な問題。高齢になれば、可能かも ㊶料金、道路、駐車場、外国人対応（スマホなど）不足 ㊷休暇問題。高齢者向けの長期滞在、40歳以下の世代に向けた短期滞在のプログラムの充実を図る ㊸1人旅の宿の増加 ㊹資金と時間に余裕がないと、実現は難しいのでは ㊺社会人は休暇の問題、リタイア組と学生は費用の問題がある ㊻ラウンジの充実、ツアーの充実を図って欲しい ㊼休日の取得の難しさ、宿泊地で何をするか分からない ㊽現実には1泊しか出来ない。日本の休暇の少なさが問題だと思う ㊾長期滞在は必要か、疑問に思う。日帰りでも良いのでは ㊿時間と経済的な面で難しい ㊿経営者と従業員とで、仕事に対する考え方で、ギャップがあるのでは